

特集

検査室を支える企業力 2023

東京都済生会中央病院 × メディアス

臨床検査薬の管理業務を軽減

「Medyus2-DR」導入でシステム化

東京都済生会中央病院（東京都港区、535床）は2022年11月、臨床検査薬の管理システムとして、メディアスの臨床検査薬管理システム「Medyus2-DR」を導入した。臨床検査技師が手作業で行っていた個数やロットの確認・記録はバーコードの読み取りで可能になり、作業負担が大幅に軽減。特定ロットの追跡や製品リスト作成なども効率的にできるようになった。今後は、病理検査で多く取り扱うホルマリンの管理などにも活用したい考えだ。



同病院は急性期医療の機能を中心に備えており、東京都港区で唯一の3次救急医療機関や災害拠点病院に指定されている。また、医療費の支払いが難しい患者を対象とした無料低額診療事業も実施している。

外来患者数は1日約1200人。臨床検査科には57人の臨床検査技師が所属している。臨床検査薬の発注や納品、ロットや在庫の管理などはこれまで、システム化されておらず、検査技師が手作業で台帳に記録するなどしており手間や時間がかかっていた。作業負担の軽減を検討していた中でMedyus2-DRを知った。

Medyus2-DRは、製品の使用期限やロットの管理、管理台帳の自動作成などの機能を備えており、データは院内設置のサーバー管理かインターネットのクラウド環境かを選択可能で病院の規模などに合わせて運用できる。

技師長の神野雅史氏は、臨床検査薬の管理システムについて、「ローコストで有効なものを導入したいと考えていた」と説明。Medyus2-DRは費用や機能などが同病院のニーズに合致したという。22年11月から本格的に稼働させ、導入時には使い方の簡易マニュアルを自分達で作成したほか、研修会なども実施。また操作の間違いなどを防ぐため、「マイメニュー機能」を活用して、発注や納品など各担当者が日常的に使用する頻度が高いメニューのみが画面上に表示されるように個別に設定も行った。

ロットの追跡なども容易に

同病院では臨床検査科の7部門（免疫・化学、血液、一般、細菌、遺伝子、輸血管理、病理）に採血を加えた計8部門がそれぞれMedyus2-DRのIDを持ち、各部門で必要な臨床検査薬や消耗品の発注や納品、払い出しなどを実施している。



神野氏

Medyus2-DRの導入以前は納品の際に、検査技師が製品パッケージに印刷されている情報を見て個数の確認やロットを台帳に記入するなどしていたが、Medyus2-DRでは納入業者から送られる納品情報を一覧にした確認書のバーコード一つを読み込めば納品時の全ての製品情報を一括して入力できる。前回と異なるロット番号が納品された際もシステムが知らせてくれる。また、製品の使用時には各製品のバーコードを読み取ることでロット毎の使用開始日を自動で記録しながら払い出し作業を終えることができる。いつ、どの製品がロット番号別に何個入り、何個使用されているかなどを簡単に把握できるようになり、使用ロットの逆転も防止できるようになった。

神野氏は、「従来負担になっていた業務が軽減されたことで、検査技師

には本来の検査業務に注力してほしい」と期待。また、「今後は、システムのデータを見ながら在庫の適正化などを図っていきたい」と意欲を示した。

副主任の米澤博貴氏は、作業負担の軽減に加えて、「ロットの追跡ができるようになった点が大きい」と評価している。従来は用紙の記録を参照する方法しかなく、追跡が容易ではなかったが、Medyus2-DRの導入によりロット追跡の方法が改善され医療安全確保の体制整備につながった。



米澤氏

ホルマリン管理への活用も検討

病理部門を担当している主任の笹本泰子氏は、Medyus2-DRについて「ホルマリンなどの毒劇物の管理に活用できないか、運用面を含めて検討していきたい」と話す。ホルマリンの各瓶は現在、払い出し時と返却時に個数を確認。個数が合わない場合、払い出しをした先に連絡して探し出している。これが非常に煩雑なため、各瓶のトレーサビリティを確実に実施することが課題だ。

この課題解決のため活用を検討しているのが、ホルマリンを対象にしたMedyus2-DRの個別製品管理機能だ。メディアスが国内の主要ホルマ

リンメーカーと共同で開発したもので、メーカーの工場ホルマリンの箱や各瓶にバーコードを貼付。このバーコードを基に、各瓶のシリアルナンバーやロット、有効期限などの情報を共有し、瓶単位のトレーサビリティができる。

笹本氏は、院内でこの機能を活用するために、ホルマリンや毒劇物などを使用する臨床の場での協力と理解を得られるように、運用面での検討を進めているとした。また、化学物質の環境中への排出量および移動量を把握・集計・公表する制度PRTR（化学物質排出移動量届出制度）を管理する機能追加を進めていることにも関心を持っている。



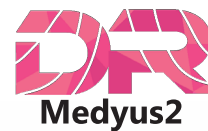
笹本氏



臨床検査科の皆さん

手軽に
試薬管理を実現

ロット管理・台帳作成の効率アップ！



Medyus2-DR 医療材料・医薬品ソフトと併せて病院物流を総合管理

発注と納品情報をオンライン化しロット管理は自動化へ
クラウド型システムで初期投資を削減。オンプレミス型も選択可能

- 現物バーコード利用と、シールによる個別管理を選択可能。
- 試薬使用時にバーコードを読むだけ。ボトル単位での小分け管理も可能。
- ISO15189の運用もサポートする部署 / 分野 / 機器 / 作業員別の記録。
- 豊富な導入実績。運用方法についてもお気軽にご相談ください。

オプションアプリの一例

- 使用実績に基づいた検査項目別の原価計算
- 院内システムや検査システムとの連動プログラム
- ホルマリン小瓶の院内における入出庫管理



株式会社メディアス

本社：〒920-8203 石川県金沢市鞍月5丁目181番地 AUBEビル6F TEL：076-255-1827
拠点：東京・大阪・福岡
www.medyus.co.jp